

# 情報収集衛星に係る経費の 平成27年度補正予算案及び平成28年度政府予算案

平成27年12月24日  
内閣官房

## 1. 平成27年度補正予算案の概要

- (1) 情報収集衛星光学7号機の打上げ用ロケットの製造・検査工程の前倒しを実施し、検査工程の時間を十分に確保することで、検査体制を強化し、確実なロケットの打上げを行う。
- (2) 情報収集衛星光学7号機及びレーダ6号機の開発に必要な部品・材料等の早期調達を行い、試験を早期に実施することで、開発工程における重要な品質の問題等を早期に把握・解決し、工程の遅延リスクを低減する。
- (3) GEOINT 基盤データの早期の整備となりうるテロ対策用等の人文地理データを先行的に取得し、内閣衛星情報センターの分析に資するとともに、同データを省庁間でも共有する。

## 2. 平成28年度政府予算案の概要

従来の4機体制では、撮像頻度の制約等の課題があることから、撮像時間の多様化及び撮像頻度の向上のため、情報収集衛星の機数増を行う。具体的には、関心対象の発見、識別及び詳細監視のための「基幹衛星」4機（従来の4機体制に相当）に、関心対象の動的な監視のための「時間軸多様化衛星」4機及びデータ中継衛星2機を加え、合計10機の整備の計画について検討する。このような方針の下、以下の主要施策を実施する。

- (1) 光学多様化1号機の開発に着手する。
- (2) 基幹衛星としてのレーダ8号機の開発に着手する。
- (3) 各種情報を融合・処理した地理空間情報（GEOINT）の基盤整備に着手する。
- (4) 情報収集衛星システムの機能・性能の抜本的向上のため、短期打上型小型衛星を含む実利用を目指した重要技術の先行研究開発を拡充・強化する。

### 3. 平成27年度補正予算案及び平成28年度政府予算案の内訳

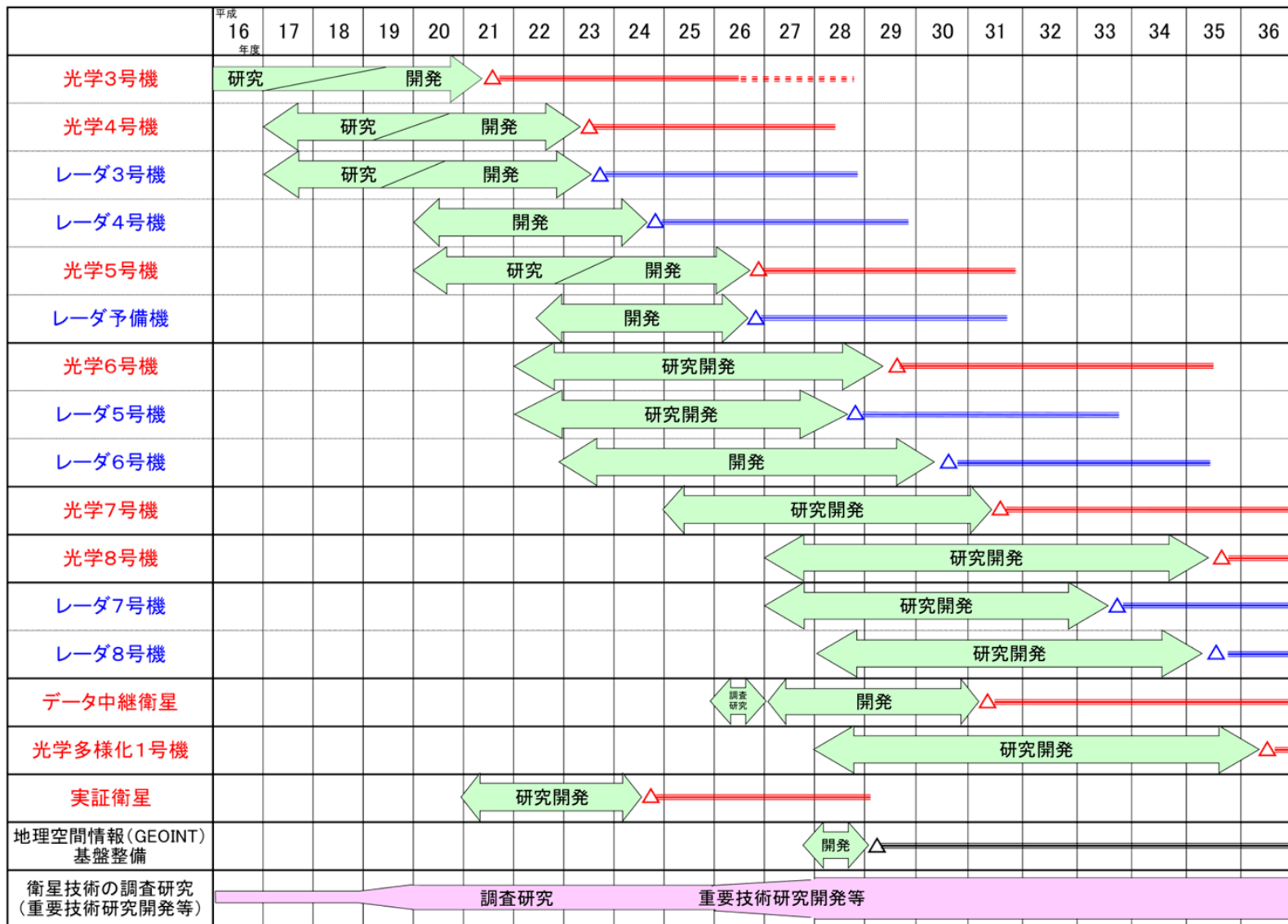
平成27年度補正予算案及び平成28年度政府予算案の内訳は以下のとおり。

(単位：億円)

経費区分	平成27年度 予算額	平成27年度 補正予算案	平成28年度 政府予算案	対前年度 比較増減
(1) 情報収集衛星の運用等	146	0	141	▲5
(2) 光学6号機、レーダ5、6号機 の開発	276	20	249	▲26
(3) 光学7号機の開発	68	69	66	▲3
(4) 光学8号機の開発	21	0	28	6
(5) レーダ7、8号機の開発	12	0	26	14
(6) データ中継衛星の開発	14	0	46	32
(7) 光学多様化1号機の開発	—	0	2	2
(8) 実証衛星の運用	9	0	8	▲1
(9) 光学5号機の開発	8	0	0	▲8
(10) レーダ予備機の開発	4	0	0	▲4
(11) 大型光学センサ地上実証	22	0	0	▲22
(12) 地理空間情報(GEOINT)基盤 整備等	—	9	4	4
(13) 衛星技術の調査研究等	35	1	49	15
合計	614	100	619	5

(注) 四捨五入のため、必ずしも合計が一致するわけではない。

# 研究・開発及び打上げスケジュール



※ 平成28年度予算案時点での見通しであり、今後、変更が生じ得る。